

令和 7 年度 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会  
第 2 回 観光プロモーションに関する分科会  
議事要旨

(1) 概要

開催日時	令和 7 年 8 月 5 日(火) 午前 10 時から正午まで
開催場所	荒川区役所 大会議室
出席者 (敬称略)	<p>(協議会委員)</p> <p>分科会長 丸山 慎二郎 委 員 田中 類 委 員 細谷 誠 委 員 山田 章博</p> <p>(区側出席者)</p> <p>産業経済部長 小林 弘幸 産業振興課長 山下 英男 就労支援課長 伊藤 大介 観光振興課長 渡部 雅人</p>
配付資料	・ 荒川区観光プロモーション企画書

(2) 議事

議題	観光プロモーション分科会の提示案について
議事内容	
<p>1. 分科会長から提示された、荒川区観光プロモーション企画案について、区の検討結果を提示</p> <p>2. 意見交換(各委員の主な発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「6 ARAKAWA MONEY」については、現行のプレミアム商品券と同じで、期間を区切って利用できるようなもの(通年利用ではないもの)でもよいのではないかと。現行ではオペレーションがすべてアナログとなっていて、手間がかかっている。デジタル化により省力化と区内経済活性化が両立できれば。</li> <li>・「2 荒川スナック物語」は産業施策と最も関係が深いものと考え。民間だけで行う取組は継続的でないものもあり、区として尖ったものがあると良いと考える。</li> </ul>	

- ・「3 ARAKAWA CULTURE&FUTURE LAB」と「1 荒川ユナイテーク」について、教育のコンテンツは観光に必要だと考えている。荒川区は、カルチャーとか人とかいうところを出していかないと(いけない)。渋谷にはなれないので、昔の下北沢のような雰囲気を目指したい。
- ・「8. 荒川遊園夜市」に関して、私たちの繊維街も夜は空いていないので、その夜を使うモデルとしてできればよい。遊園にいつもある売店と違った業者が入ってモノを売っているのは面白いと思っている。ただ、ごみとか近隣の方への迷惑の問題とかへの配慮は必要。
- ・繊維街のある日暮里から遊園への交通機関が課題である。
- ・トゥクトゥクとかを走らせるのも面白い。このコースだけ通るというルール決めがあると良いと思う。
- ・荒川区に縁のない方でも観光プロモーターとしてやってもらった方が良い。
- ・「3 ARAKAWA CULTURE&FUTURE LAB」について、やっただけで終わらせないよう、アウトプットの機会が必要と思う。
- ・青年会議所では結構教育施策をやっていた。先生たちの負荷を軽減するためにも、「3 ARAKAWA CULTURE&FUTURE LAB」のような探求の仕組みを公教育に組み込みたい。イベント型でやると意識ある家庭しか来ないし、集客にも課題がある。
- ・荒川区の学校には防災部があるが、これと同様に観光部を作って地域の魅力を発信できるとよい。
- ・荒川区は都心よりも「日本の文化」っぽいところが残っている。ここで日本の文化・マナーを伝える、絵などを多用したチラシ等を作ると、文化の深掘りに資するし、お土産にもなると思う。
- ・商店街の中でもインバウンドに対する歓迎の姿勢に差がある点について、この会議等で呼びたいと思う人・そう思わない人とのバランスを取って、方針を決める必要がある。そうしないと、インバウンドをもとめる店は荒川から出ていくかもしれない。
- ・来る人をコントロールすることはできないので、観光客に「この町ではこれが正解である」ということを伝える必要があるのではないか。
- ・店舗対応の際、日本人客は会釈程度であるが、外国人客は目を見て「こんにちは」と言ってくる。こちらも目を見て「ハロー」と言ってあげれば変なことは起こらず、ちょっと話せば回避できるクレームは多くある。面白いマナーブック等で啓発して、外国人客が理解してくれれば、衝突は減るのではないか。外国人は日本ではみんな知っている普通のマナーを知らないだけで、伝えればやってくれる。

(以上)